

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな 経済フラッシュ

## (米国2019年4-6月期GDP速報)

2019/7/29

りそなホールディングス 市場企画部

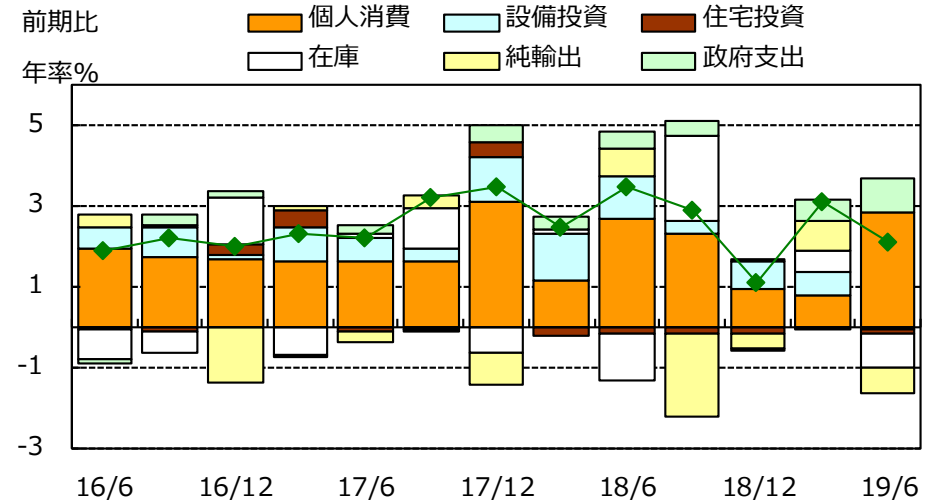


### 〇概況

- ◆ 4-6月期実質GDP成長率は前期比年率+2.1%
- ◆ 前期から減速も個人消費が前期比年率+4.3%と強い伸び
- ◆ 堅調な個人消費動向が米国経済を支える構図が今後も続くと思われる

- ✓ 2019年4-6月期実質GDP成長率は前期比年率+2.1%となった(市場予想+1.8%、1-3月期+3.1%)。尚、コアPCE価格指数は前期比年率+1.8%と伸びが拡大した(1-3月期+1.1%)。
- ✓ 個人消費は前期比年率+4.3%(市場予想+4.0%、1-3月期+1.1%)と伸びが拡大。耐久財(1-3月期+0.3%→4-6月期+12.9%)、非耐久財(+2.2%→+6.0%)、サービス(+1.0%→+2.5%)はそれぞれ伸びが拡大した。
- ✓ 設備投資は前期比年率▲0.6%(1-3月期+4.4%)と9四半期ぶりのマイナス。内訳をみると、構築物(+4.0%→▲10.6%)、知的財産(+10.8%→+4.7%)、機器(▲0.1%→+0.7%)となった。住宅投資は前期比年率▲1.5%(1-3月期▲1.0%)と6四半期連続でマイナスとなった。
- ✓ 在庫は前期比年率ベースでの寄与度が▲0.86%ポイント(1-3月期+0.53%ポイント)とマイナス寄与。プラスとなった前期の反動もあり在庫調整の動きがみられた。
- ✓ 輸出は前期比年率▲5.2%(1-3月期+4.1%)、輸入は+0.1%(1-3月期▲1.5%)で外需はマイナス寄与となった。
- ✓ 政府支出は前期比年率+5.0%(1-3月期+2.9%)で2四半期連続のプラス。
- ✓ GDP成長率は前期から減速しているものの、在庫調整や輸出の減少が押下げ要因で、個人消費は伸びが鈍化した前期から持ち直して強い内容。1-3月期からならしてみても米国経済の底堅さが伺える。世界経済の成長鈍化から外需に不安要素がある一方で、堅調な雇用・消費動向が米国経済を支える構図が今後も続くと思われる。
- ✓ 金融政策面でも7月FOMCでは利下げが確実視され、景気を下支えする。一方、景気の底堅さをみると、市場が期待するような先行き大幅な利下げを行う必要性は疑問視される。

### 【実質GDP成長率(季節調整済、年率)】



### 【実質GDP成長率寄与度(季節調整済、年率)】

	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2
<b>実質GDP</b>	<b>+3.5</b>	<b>+2.9</b>	<b>+1.1</b>	<b>+3.1</b>	<b>+2.1</b>
個人消費	+2.7	+2.3	+1.0	+0.8	+2.9
設備投資	+0.9	+0.1	+0.5	+0.6	▲0.1
構築物	+0.3	▲0.1	▲0.3	+0.1	▲0.3
機器	+0.2	+0.2	+0.4	+0.0	+0.0
知的財産	+0.5	+0.2	+0.5	+0.5	+0.2
住宅投資	▲0.2	▲0.2	▲0.2	▲0.0	▲0.1
在庫	▲1.2	+2.1	+0.1	+0.5	▲0.9
外需	+0.7	▲2.1	▲0.4	+0.7	▲0.7
輸出	+0.7	▲0.8	+0.2	+0.5	▲0.6
輸入	▲0.0	▲1.3	▲0.5	+0.2	▲0.0
政府支出	+0.4	+0.4	▲0.1	+0.5	+0.9

【出所】米商務省、Haver Analytics

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。